

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100617		
法人名	医療法人社団 回春会		
事業所名	グループホーム悠々の家		
所在地	松江市川原町308		
自己評価作成日	平成26年3月17日	評価結果市町村受理日	平成26年6月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	鳥根県松江市上乃木7丁目9-16		
訪問調査日	平成26年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護老人保健施設悠々園、小規模多機能施設悠が隣接しており、毎月の行事や季節に応じた行事、クラブ活動を合同で行い、社交性を高め楽しみの持てる日常生活が送れるよう支援している。校外出、ばたん外出、ばら外出、大山紅葉見物、食事外出等行事の際には家族や地域の方をはじめ、ボランティアとも多く交流している。行事では、悠々園や外部に出かけることが心身ともにご利用者に良い影響を与えている。みなさんとも楽しみにしていらっしゃるし、歩くことがりハビリになっている。看護師が配属されており、利用者の日常的な健康管理や医療機関との連携をとっている。又、ISOの認証を取得しており、利用者本位で個別ケアが生かされた介護サービスが提供できるよう、日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から年数を重ねており、母体施設と共に知名度は高い。将来の介護の担い手としての実習生の受け入れや施設見学の受け入れなど、地域との交流にも積極的に取り組んでいる。母体施設との交流の場が多く設定され、クラブ活動やボランティア見学等入所生活の中の楽しみや変化、精神面での刺激として続けられており、機能維持には効果的と感じられた。また数年前に自然災害経験したことを機に、災害対策にも前向きで放射能等も考慮に入れた、先進的取り組みにも大い期待が持てる場所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関・サービスステーション内の目に付き易い場所に掲示している。また朝礼・スタッフ会等で理事長はじめ幹部職員より尊厳の保持・その人らしい生活についての話があり、日々意識統一を図っている。	職員一人ひとりが意識できるように、玄関、スタッフルームなどに掲示したり、朝礼、ミーティング、各種会議の場でも繰り返し取り上げ、人間の尊厳を中心に話をしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	行事やクラブ活動を通して、悠々園や悠、地域の方やボランティアと交流している。実習生の受け入れや見学も受け入れている。	介護福祉士の実習生の受け入れ、地域の方の施設見学などは積極的に受け入れている。近くの幼稚園の夏祭りに出向いたり、踊り、コーラス等のボランティアの交流も盛んに行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や入居希望の相談にのる事で地域との連携を深めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老健・小規模多機能とも合同で開催している(松江市・地域の民生委員・家族等参加)施設の近況(利用状況・行事・生活の状況等)事故・クレームについて・災害避難訓練等について報告し、意見交換・要望をきいている。	今年度は参加者の調整がつかず1回しか開催できていない。利用状況、行事、防災関係等の報告を行ない、市や包括からも意見をj得ている。	地域関係者や家族等、より多くの参加者で開催できるよう、また定期的な開催で地域との関係作りにも繋げていただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険サービスに関する問い合わせを必要時行っている。介護相談員の受け入れを行いサービスの向上に努めている。包括支援センターとは利用状況の問い合わせや、退居された場合の新規利用の相談等を行っている。	空きが出た場合には包括への問い合わせ状況を聞いたり役立てている。運営推進会議にも参加を得ており相談できる関係を築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設・事業所と合同でリスクマネジメント委員会を設置し、身体拘束防止に努めている。毎年施設内研修を行うほか、朝礼での話やヒヤリ・ハットをあげることで周知徹底を図り職員の意識を高めている。	新人研修や施設内研修で取り上げている。朝礼やその他の会議では具体的な事例をあげたり、関連記事を掲示板に貼ったりして、より身近に感じて徹底するように努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、リスクマネジメント委員会を設置し、研修を行うことで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用していらっしゃる方がいる。その方のケースより制度について学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時等には重要事項説明書・契約書の内容について丁寧な説明を行うと共に、不明点や疑問点についても説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている。また面会時・ケアプランの見直し時・事故等あった時や体調に変化があった時など都度連絡を取り意見を聞いている。日々の生活している中でわずかな事でも希望・要望を聞き改善に努めている。	毎月担当が近況報告を送っており、意見を得るようにしている。面会時に声をかけ思いを聞くようにしたり、ちょっとしたことでも電話を入れ報告の際に意見を聞くようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回開催されるスタッフ会で議題を提出し協議している。又その都度相談して解決に努めている。	夜勤明けの報告を理事長に行なうようにしており、その際日頃の業務等についても話をする機会になっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキル評価表・介護技術チェック表・提出レポートなどにより勤務状況を把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は新人研修やその他都度実践している。外部研修についても当グループに相応しい内容のものについては参加させている。OJTによる指導を行ない職員のスキルアップを図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はグループホーム部会には参加していないが、後日資料をもらい参考にしている。研修時には他施設との情報交換を行い情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては病院・自宅や利用している介護サービス事業所に出向き、担当者・ケアマネ・本人より現況及び不安に思う事・心配な事を事前に情報を得て対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接に家族又はキーパーソンから不安な事や要望を聞き対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの情報と、医師からの医療情報を総合的に勘案し、利用が適切かどうか判断する。該当とならない場合、居宅介護支援事業者と連携を行い、適切なサービス利用の導入を支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	リビングパートナーという意識を持ち、入居者の得意とすることや出来ることを引き出し一緒に行うように心がけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度、生活環境・生活歴について家族・親族から伺い共に支援するという関係が築けるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊の機会を多く持っていただけるよう支援している。友達や知り合いの方の面会・家族の方の面会についても自室で話ができやすいように配慮している	友人が同窓会的に面会されるケースもあり、お茶の接待をし、ゆっくりと過ごせるように配慮している。在宅での繋がり継続のために家族には外出、外泊への協力を呼びかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士お互いを尊重しつつ、一人の利用者が避難されたり孤独にならないよう間に入り皆で支え合って生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気等で入院された場合には、病院のMSWや居宅支援事業所・施設相談員と連携を図り困られることがないよう支援している		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、ケアプラン見直し時等、本人や家族が望まれる生活を伺い、意向に添うよう努めている。	本人家族からの情報に加え、以前の様子を知る人からの聞き取りをできるだけ行ないアセスメントを作成している。何げない会話の中からも思いを聞き出すように心掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、居宅支援事業所等より情報収集し、調査の作成及びカルテ記載している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報・カルテ・連絡帳・ミーティング記録より情報収集をしてから勤務に就く。また皆に伝えておかないといけない事・気づいたことは同様に記録に残し情報の共有化を図っている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の生活については多くの情報を収集し細かくアセスメントするようにしている。それをケアプランに反映させている。日々のケアや見直し時にも担当者を中心に意見を話し合いケアプランを見直している。	利用開始にあたっては2週間の暫定的なプランを作成し、変更を加えながら現状に添ったものになるように、職員で話し合いながら進めている。モニタリングを3ヶ月に1回実施するようにしている。	観察、記録についての検討を行うことでより実態に添った計画に繋がるような取り組みに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ・ミーティング記録に日々状況・気づき(機能面・精神面)を記載し情報の共有化を図っている。それをケアの見直し・ケアプランに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師が兼務で勤務しており医療面では医師と連携を図っている。又、必要時には隣接する老健の管理栄養士・訓練士などに相談することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区民生委員の方に運営推進会議に参加して頂き、率直な意見を頂いている。年2回の防火訓練で消防署より指導を受けている。又近隣の小中学生との交流を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な往診がある。又、体調不良や怪我をされた場合には看護師が中心となり家族・かかりつけ医と連絡をとり、適切な医療を受けられるような体制をとっている。	2週間に1回定期的な往診がある。緊急時にも対応可能となっており家族の安心に繋がっている。精神科の受診は家族対応になっているが、日頃の様子を細かく伝えるようにして指示を得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が兼務で勤務しており、体調の変化・気づいたことなどについては都度相談して対応をしている。そこからかかりつけ医への連絡・相談を行い適切な医療を受けられるよう支援している。又、医師からの指示は都度介護職員に伝えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合には、施設での状況を文書で病院看護師に伝える。MSWにも状況を伝え連携を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り・緩和ケアのマニュアルは作成している。そのような状況になられた時には家族ともよく話し合い意向を聞く。かかりつけ医・管理者とも一緒に話し合い方針を決める	看取りの指針、マニュアルも作成している。重度化に伴い、主治医を交え話し合いを繰り返しながら進めていく方針で、母体施設全体で終末期に取り組むこととしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署による救命救急研修を行い、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火・防災訓練を行っている。(昼間の想定・夜間の想定)職員は全員参加し意識を高めている。又、併設施設とも連携を図れるよう計画している。	母体施設との合同訓練に加え独自に夜間、昼間を想定して訓練を実施している。施設全体で助け合うような形での訓練を今後も継続する意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルを作成し、職員一人一人が入居者の尊厳尊重の意識を持ち接している。	マニュアルを作成したり、新人研修の中でも取り上げている。気付きノートを利用して入浴、排せつの介助の際の具体的な事例をあげ研修するようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の活動は、都度本人の意志を確認して行なっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を決めず、起床時間や就寝時間、毎日の家事や余興時間の過ごし方など、本人の意思や希望を尊重している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の洋服は自分で選んでもらうようにしている。お化粧をしたい方にはしてもらっている。髪のカットも本人の好みにしてもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の力量や好みに応じて、利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。悠々園で行っている喫茶・バイキング・誕生日会はとても楽しみにしておられる。	野菜の皮むきや味見をする人、食器を拭くなど片づけのできる人など、できることを手伝い食事がなされている。職員が間に入り一緒に会話しながら楽しく食事を摂っている。リビンクからいい匂いが漂っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については、おかずを残される方は少しでも食べられるよう声掛けをしている。水分は、好みの飲み物もので出来るだけ多く摂取できるよう働きかけている。体重測定を月1回行い増減に注意している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを徹底し、都度口腔内や義歯の状態を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を使用し、一人一人の排泄パターンを把握している。それによりそれぞれの間隔を見ながらトイレ誘導をしている。	個々に合わせて紙パンツやパットを使い分けしている。トイレチェック表を見ながら、声がけ誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘の方には水分を多めに摂取してもらうよう働きかけている。冷たいお茶を勧めたり腹部マッサージや運動も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中いつでも入浴できるようにしている。急がせることなくゆっくりと入浴してもらうようにしている。	週2回のペースで声がけて意志確認のもと、入浴を促している。午前、午後、夕方の入浴も可能となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や習慣やその日の体調などにより 午睡・就寝・起床できるよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関することはカルテに記載し、目的・副作用などがわかるようにしている。薬は職員が管理しているが飲み込まれるまで確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望のクラブ活動に参加してもらっている。日々のアクティビティも本人の好まれる事・趣味を勧誘して勧めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望・体調により戸外の散歩を行っている。外出行事や家族の希望で普段行けないところに出かけられるような体制をとっている。	施設内の敷地が広く、周りを散歩したり近くのコンビニに買い物に行ったり、天候の良い日にはできるだけ外出の機会をもつようになっている。裏に花壇も作っており、外での楽しみになっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行わないが、外出行事等で買い物をしたい方については立て替え金として所持し買い物をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話を掛けたり、手紙を書いたりできるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清掃を行い清潔を保っている。季節の花を活けたり、季節に相応しい貼り絵を行い飾ったり、屋外の見える所には花を植えたプランターを置いている。それらにより季節を感じてもらえるよう配慮している。	窓からのどかな田園風景を眺めることができ、周りの草木からも季節を感じ取ることができる。壁には季節の絵や作品が飾られ、ソファでゆったりとくつろげるようになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファを置き、テレビを見たり横になったりしやすい空間にしている。庭に面したコーナーは椅子を置いて田畑を眺めたり、鳥や犬・猫を観察する場になっている。又、台所も気軽に入れるよう、家庭的な雰囲気でお話している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物や今まで使用しておられたものを持ってきていただきたいとお願いしている。使用していた鏡・小さな仏壇・犬の写真・家族の写真などいろいろ持参されている。	使い慣れた物の持ち込みをすすめており、気持ちのよい部屋になるようにされている。ベッド等の配置は動線を考慮して設置されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のプレートの下には表札がある。トイレ・浴室などは都度職員が案内をして場所を覚えて頂けるよう援助している。。		